

No. 117

COLEOPTERISTS' NEWS

琉球列島の水生甲虫類, II*

佐藤正孝

ダルマガムシ科 Hydraenidae の属および種への検索表

- 1(2) 体側は前胸と上翅の接点で狭くなる。上翅端はまるまり、尾節板は露出しない、……………ダルマガムシ属 *Hydraena* (背面は濃黄色で、前胸背板中央は幅広く暗色となる。体長 1.4-1.6 mm……………ミヤタケダルマガムシ *H. miyatakei* M. SATÔ)
- 2(1) 体側はほぼ一様にまるまる。上翅端はやや切断状となり、尾節板が露出する……………ミジンダルマガムシ属 *Limnebius*
- 3(4) 上翅の基半は明らかに点刻される。体長 1.3-1.4 mm……………オキナワミジンダルマガムシ *L. nakanei* JÄCH et MATSUI
- 4(3) 上翅の基半は非常に細かく点刻される。体長 0.9-1.2 mm……………タイワンミジンダルマガムシ *L. taiwanensis* JÄCH

ホソガムシ科 Hydrochidae

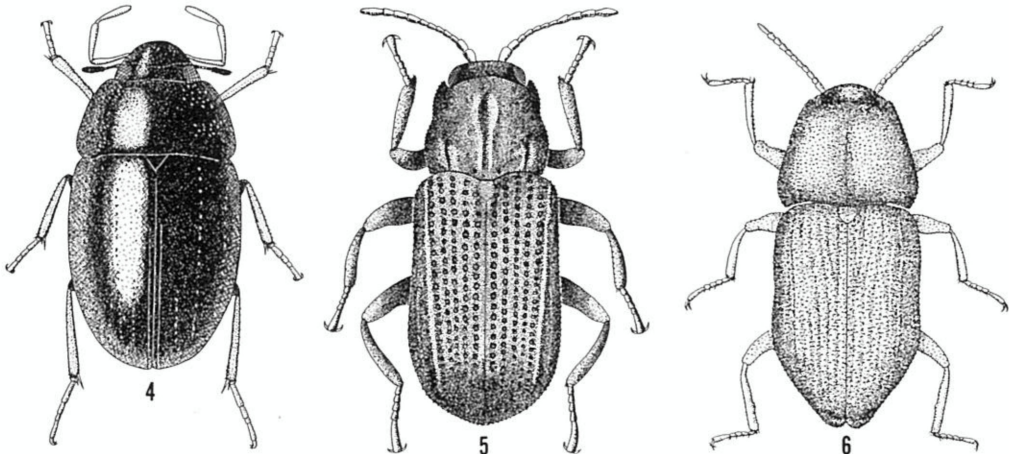
1 属 1 種、ヤマトホソガムシ *Hydrochus japonicus* SHARP (背面は暗褐色で、緑色の金属光沢を有する。前胸腹板は顕著な凹陷が認められる。上翅の第 3, 7, 9 間室は明瞭に隆起し、第 5 間室は隆条となる。体長 2.6-3.1 mm。) が知られているにすぎない。

ガムシ科 Hydrophilidae の亜科、属および種への検索表

1(58) 前胸背板の側縁は長く、後角はやや角ばり、内側の前縁に沿って条線がない。前胸腹板は基節間において容易に認められる。

2(49) 中・後胸腹板は全体として平坦となるが、中央部に縦隆起や突起を部分的にそなえる場合がある。

3(38) 頭頂は前方へ傾斜することなく、後頭部に隆線がない。複眼は突出しない。触角は 8 節または 9 節。前胸背板と上翅との側縁は連続してつなが



- 図 4 コクロヒラタガムシ *Chasmogenus abnormalis* (SHARP) (SATÔ, 1976);
 図 5 アカハラアシナガミゾドロムシ *Stenelmis hisamatsui* M. SATÔ (SATÔ, 1960);
 図 6 ノムラヒメドロムシ *Nomuraelmis amamiensis* M. SATÔ (SATÔ, 1964).

* M. SATÔ, Aquatic Coleoptera of the Ryukyu Archipelago, II.

- る。中・後跗節には遊泳毛がない……………マルガムシ亜科 Hydrobiinae
- 4(15) 小あごひげはやや太めで、触角より短いか同じくらいの長さ。
- 5(12) 触角は8節。腹部は6節が認められる。後跗節は大きく、先端部は腿節からやや離れる。後跗節は外方へ弱く湾曲する……………シジミガムシ属 *Laccobius*
- 6(7) 上翅の間室には点刻列よりやや大きい疎点刻を有する。体長 2.6-2.8 mm……………コモンシジミガムシ *L. oscillans* SHARP
- 7(6) 上翅の間室には僅かな細かい点刻が認められる。
- 8(9) 中胸腹板の縦隆の先端はくちばし状に尖る。雄交尾器中央片の先端は丸まる。体長 2.5-2.7 mm……………ヨナグニシジミガムシ *L. yonaguniensis* MATSUI
- 9(8) 中胸腹板の縦隆の先端は単純に尖る。雄交尾器中央片の先端は切断状となる。
- 10(11) 雄交尾器中央片はやや細く、先端より少し後方で僅かにくびれる。体長 2.4-2.7 mm……………オキナワシジミガムシ *L. nakanei* GENTILI
- 11(10) 雄交尾器中央片はやや太く、先端に向かってゆるやかに狭くなる。体長 2.3 mm……………アマミシジミガムシ *L. satoi* GENTILI
- 12(5) 触角は8節または9節。腹部は5節が認められる。後跗節はあまり小さくなく、先端部は腿節に密着している。後跗節は湾曲しない。
- 13(14) 前・中胸腹板の中央は縦隆起を形成する。後腿節は密な微毛によって覆われることはない……………チビマルガムシ属 *Paracymus* (背面は浅く密に点刻され、上翅に亜会合線をそなえる。中胸腹板は中央がほぼ三角状に突起する。体長 2.2-2.3 mm……………チビマルガムシ *P. evanescens* SHARP)
- 14(13) 前・中胸腹板の中央は縦隆起とならない。後腿節の基部 2/3 は密な微毛によって覆われている。上翅の点刻は強く、不規則ながら一部が列状となる。中胸腹板は後方が弱く突起となる。腿節は次第に先端へ狭くなる……………コマルガムシ属 *Crenitis* (黒褐色で、周縁は淡色となる。上翅は明かな亜会合線を有する。体長 2.1-2.3 mm……………トカラコマルガムシ *C. tokarana* NAKANE)
- 15(4) 小あごひげはやや細く、触角より長い。
- 16(17) 頭部の両側はほぼ平行。小あごひげの第3節は第2節より長い。上翅は点刻列を欠く。体は楕円形で、後方へ強く狭まる。前・中胸腹板は中央に縦隆条を有する。腹部腹板の第1節中央に縦隆条を有し、先端節の後縁はまるまる……………マルチビガムシ属 *Pelthydrus* (背面は暗褐色で、周縁は赤味を帯びる。上翅は密に点刻される。中胸腹板は三角状に突出する。体長 2.8-2.9 mm……………オキナワマルチビガムシ *P. okinawanus* NAKANE)
- 17(16) 頭部の両側は前方へまるまる。小あごひげの第3節は第2節と等しいかまたはより短い。上翅は点刻列を有するか、単に会合線小溝のみを有する。
- 18(29) 上翅は後方へほどよくまるまり、中央部で最も幅広くなる。小あごひげの第2節は全体はほぼ同じ太さで、内方へ弱く湾曲する。中胸腹板の中央は薄片状となる……………ヒラタガムシ属 *Enochrus*
- 19(28) 上翅に亜会合線を有する。
- 20(27) 体は長楕円形でほどよく膨隆する。腹部第5節の先端は湾入する。
- 21(24) 中胸腹板の隆起は高く大きい。体長は3 mm 以上。
- 22(23) 体は褐色ないし黒褐色で、周縁は淡色となる。中胸腹板は球塊状で先端は尖る。体長 3.5-3.6 mm……………ウスグロヒラタガムシ *E. uniformis* (SHARP)
- 23(22) 体は黒色。中胸腹板は球塊状で中央に小歯を有する。体長 4.3-4.7 mm……………サトミヒラタガムシ *E. satomii* NAKANE et MATSUI
- 24(21) 中胸腹板の隆起は低く短い。体長は2.5 mm 以下。
- 25(26) 背面は褐色で、頭部と前胸背は黒褐色。体下面は暗褐色となる。体長 1.7-2.2 mm……………リュウキュウチビヒラタガムシ *E. ryukyuensis* MATSUI
- 26(25) 背面は黄褐色で、体下面は暗色となる。体長 2.4-2.8 mm……………チビヒラタガムシ *E. esuriens* (WALKER)
- 27(20) 体は短楕円形でよく膨隆する。腹部第5節の先端は丸まる。背面は黄赤褐色。上翅は密に点刻され、不明瞭な縦長の紋を有する。中胸腹板は板状に隆起し、前角に歯をそなえる。体長 4.8-5.0 mm……………マルヒラタガムシ *E. subsignatus* (HAROLD)
- 28(19) 上翅に亜会合線を欠き、10点刻列を有する。体は黄褐色。中胸腹板は薄片状に縦隆となっている。体長 4.9-6.0 mm……………キイロヒラタガムシ *E. simulans* (SHARP)
- 29(18) 上翅は後方へやや広がり、先端 1/3 で最も幅広くなる。小あごひげの第2節は先端にむかって太くなり、外方へ弱く湾曲する。
- 30(37) 上翅の後半に亜会合線を欠く。中胸腹板の中央がわずかに突起する……………スジヒラタガムシ属 *Helochares*
- 31(34) 上翅に明瞭な条溝または点刻列を欠く。
- 32(33) 体は黒色。上翅に不明確な2点刻列がある。中胸腹板の中央は後方に明かな瘤状隆起がある。体長 5.9-6.8 mm……………クロヒラタガムシ *H. ohkurai* M. SATÔ
- 33(32) 体は黄赤褐色。上翅の中央に1粗点刻列がある。中胸腹板は中央の後方が僅かに隆起する。体長 2.4-3.5 mm……………ルイスヒラタガムシ *H. pallens* MACLEAY
- 34(31) 上翅に点刻からなる10条の溝列がある。
- 35(36) 上翅は黄赤褐色。腹部第5節の先端はV字形に切れ込む。体長 5.5-5.9 mm……………アカヒラタガムシ *H. anchoralis* SHARP
- 36(35) 上翅は暗褐色。腹部第5節の先端はU字

形に切れ込む。体長 4.5 mm
ヨナグニヒラタガムシ *H. uenoi* MATSUI
 37(30) 上翅の後半に明瞭な亜合線を有する。中
 胸腹板は中央後方が瘤状に隆起する.....
コクロヒラタガムシ属 *Chasmogenes*
 (体は褐色を帯びた黒色。体長 3.4-3.8 mm
コクロヒラタガムシ *C. abnormalis* (SHARP))
 38(3) 頭頂は前方へ傾斜し、後頭部に横隆線があ
 る。複眼は突出する。触角は 7 節または 8 節。前胸
 背板と上翅の側縁とは連続してつながらぬ。中・
 後跗節には遊泳毛がある.....
ゴマフガムシ亜科 *Berosinae*
 39(48) 眼は大きく突出する。触角は 7 節。頭頂の
 正中線は明瞭に認められる。後胸腹板は中央部が隆
 起し斜めの界線があり、後端に歯状突起がある.....
ゴマフガムシ属 *Berosus*
 40(43) 上翅端に 1 対の棘状突起をそなえる。
 41(42) 上翅間室は細かい僅かな点刻を有し、ほぼ
 1 列に並ぶ。腹部第 5 節先端は強く湾入し、その両
 端は尖る。体長 4.0-6.0 mm
ナガトゲバゴマフガムシ *B. elongatulus* JORDAN
 42(41) 上翅間室は細かい沢山の点刻を有し、2~3
 列に並ぶ。腹部第 5 節先端は僅かに湾入する。体長
 4.8-6.0 mm.....
シナトゲバゴマフガムシ *B. fairmairi* ZAITZEV
 43(40) 上翅端に棘状突起がなく、普通に丸まる。
 44(47) 背面に密な細毛を欠く。
 45(46) 前胸背板はやや疎に点刻される。上翅間室
 の点刻はほぼ 1 列に並ぶ。中胸腹板は後半が板状に
 隆起し、前角に切れ込みがある。体長 4.4-5.2 mm
ヤマトゴマフガムシ *B. japonicus* SHARP
 46(45) 前胸背板は密に点刻される。上翅間室の点
 刻は 2~3 列に並ぶ。中胸腹板は前角に歯がある。
 体長 6.3-6.9 mm
ゴマフガムシ *B. punctipennis* HAROLD
 47(44) 背面は密に細毛を装う。体長 3.0-3.5 mm
ホソゴマフガムシ *B. pulchellus* MACLEAY
 48(39) 眼はあまり大きくなく、突出しない。触角
 は 8 節。頭頂の正中線は不明瞭で認めにくい。後胸
 腹板は中央部がやや隆起するが、斜めの界線および
 歯状突起はない.....マメガムシ属 *Regimbartia*
 (上翅は 10 点刻列を有し、後・側方で溝状となる。
 中胸腹板は中央が板状となり、前角に 1 歯がある。
 体長 3.5-4.0 mm
マメガムシ *R. attenuata* (FABRICIUS))
 49(2) 中・後胸腹板は全体として縦に膨隆し、中
 央部が常に幅広く縦溝を形成し、後胸腹板突起は後
 腿節間へ延びる。中・後跗節には遊泳毛がある.....
ガムシ亜科 *Hydrophilinae*
 50(55) 前胸腹板は単純に隆起し、溝はない。中胸
 腹板隆起の中央に縦溝がなく、先端部は小さく V
 字形に切れ込む。後胸腹板突起は短く、長くても腹
 部第 2 節に達するだけ。
 51(54) 前胸腹板中央前縁に毛束を有し、後縁は 2

又する。後胸腹板突起は後基節間より先にのびる。
 小あごひげの第 4 節は第 3 節より長い.....
ヒメガムシ属 *Sternolophus*
 52(53) 後胸の棘突起は、短く先端がとがる。腹部
 第 5 節の先端は半月状に切れ込む。体長 8-10 mm
ミナミヒメガムシ *S. inconspicuus* (NIETNER)
 53(52) 後胸の棘突起は、長く鋭く突出し、腹部第
 2 節に達する。腹部第 5 節の先端は丸まる。体長 9-
 11 mm.....ヒメガムシ *S. rufipes* FABRICIUS
 54(51) 前胸腹板中央前縁に毛束はなく、後縁は単
 純。後胸腹板突起は後基節間で終る。小あごひげの
 第 4 節は第 3 節より短い.....コガムシ属 *Hydrochara*
 (体は黒色で、肢は赤褐色。体長 16-18 mm
コガムシ *H. affinis* (SHARP))
 55(50) 前胸腹板は隆起し、中央に中胸腹板突起の
 先端を受け入れる溝を有する。中胸腹板突起の中央
 に縦溝がある。後胸腹板突起は長く、腹部第 2~4
 節に達する.....ガムシ属 *Hydrophilus*
 56(57) 後胸腹板突起は長く、腹部第 4 節に達す
 る。腹部は細毛におおわれる。体長 23-28 mm.....
コガタガ
 ムシ *H. bilineatus cashimirensis* REDTENBACHER
 57(56) 後胸腹板突起は短く、腹部第 2 節に達す
 る。腹部は無毛となる。体長 33-40 mm
ガムシ *H. acuminatus* MOSCHULSKY
 58(1) 前胸背板の側縁は短く、前・後角はまるく
 なり、内側の前縁にそって条線がある。前胸腹板は
 基節のあいだで非常に狭くなる.....タマガム
 シ亜科 *Chaetarhinae* (タマガムシ属 *Amphiops*)
 (上翅に 8 点刻列をそなえ、基部で不明瞭となる。
 複眼は上下に 2 分される。体長 3.4-3.7 mm
タマガムシ *Amphiops mater* SHARP)
 ヒメドロムシ科 *Elmidae* の属、種および亜種への
 検索表
 1(14) 触角は比較的長く、11 節からなる。小あご
 ひげの末端節はよくふくれる。上翅の点刻列は明瞭
 に認められる。雄交尾器の中央片は普通で、基片の
 長さの 2 倍よりも短く、側片はよく発達する。
 2(13) 前脛節前縁に房状細毛がない。
 3(12) 前胸背は起伏があり、基部側方に縦溝また
 は縦隆条がある。
 4(7) 上翅の第 2 点刻列は基部 1/5 近くで第 1 点
 刻列に癒合する.....ミゾドロムシ属 *Ordobrevia*
 5(6) 上翅は黒色で、点刻列は大きい。体長 2.4-2.7
 mmアマミミ
 ゾドロムシ *O. amamiensis amamiensis* (NOMURA)
 6(5) 上翅は黒褐色で、点刻列はやや小さい。体長
 2.5-2.8 mmオキナワ
 ミゾドロムシ *O. amamiensis okinawana* (NOMURA)
 7(4) 上翅の第 2 点刻列は第 1 点刻列に癒合するこ
 となく先端まで達する.....
アシナガミゾドロムシ属 *Stenelmis*
 8(11) 前胸腹板突起の先端は丸まる。前胸背板の
 側縁は明らかに波曲する。

- 9(10) 前胸背板の縦溝は基部1/3に認められる。上翅の間室は平坦で、顆粒は普通。体長2.2-2.3 mmアカハラアシナガミゾドロムシ *S. hisamatsui* M. SATÔ
- 10(9) 前胸背板の縦溝は全体にわたって認められる。上翅の間室はやや隆起し、顆粒は明瞭。体長2.5-2.6 mmヤエヤマアシナガミゾドロムシ *S. ishiharai* M. SATÔ
- 11(8) 前胸腹板突起の先端は少し湾入する。前胸背板の側縁は僅かに波曲する。体長2.5-2.7 mmヨナグニアシナガミゾドロムシ *S. aritai* M. SATÔ
- 12(3) 前胸背は単純に膨隆するだけで、基部側方に溝または隆条がないノムラヒメドロムシ属 *Nomuraelmis* (背面は密に顆粒でおおわれる。体長2.7 mmノムラヒメドロムシ *N. amamiensis* M. SATÔ)
- 13(2) 前脛節前縁に房状細毛がある。前胸背後縁中央前に凹陷がある。腹部第1節に中央突起両側からのびた縦隆条がある。ナガアシドロムシ属 *Grouvellinus* (上翅は光沢を欠き、顆粒状で、第3間室基部は膨隆しない。体長1.6-1.8 mmマルナガアシドロムシ *G. subopacus* NOMURA)
- 14(1) 触角は短く、8節からなる。小あごひげの末端節は普通。上翅の点刻列は退化的で浅い。雄交尾器の中央片はよく発達し、基片の長さの2倍よりも長く、側片は小さく退化している。
- 15(20) 上翅の第5, 7, 9または第5, 7間室に顆粒状鎖線があるツヤドロムシ属 *Zaitzevia*
- 16(19) 上翅の第5間室の全長と第7間室後方に短い顆粒状鎖線がある。
- 17(18) 上翅側片は後方においても前方とほぼ同じ幅。体長1.6-1.7 mmアリタツヤドロムシ *Z. aritai* M. SATÔ

- 18(17) 上翅側片は後方に向かって明らかに狭くなる。体長1.5-1.6 mmヤエヤマツヤドロムシ *Z. yaeyamana* M. SATÔ
- 19(16) 上翅の第5, 7, 9間室の全長にわたって顆粒状鎖線がある。上翅の点刻列における点刻間の幅は、その点刻の約1.5倍。前胸背板の中央溝は細く、基部の圧下部に達しない。体長1.6-1.7 mmナガツヤドロムシ *Z. elongata* NOMURA
- 20(15) 上翅の第5間室に顆粒状鎖線がなく、第9間室の顆粒状鎖線はほとんど消失し、翅端近くでわずかにみとめられる。上翅の点刻列はほとんどみとめられないウエノツヤドロムシ属 *Urumaelmis*
- 21(22) 上翅は僅かに光沢があり、かすかな7点刻列が認められる。前胸背板側縁の後方は波曲する。体長1.8-1.9 mmウエノツヤドロムシ *U. uenoi uenoi* (NOMURA)
- 22(21) 上翅は光沢を欠き、点刻列はほとんど認められない。前胸背板側縁の後方は波曲しない。体長1.7-2.2 mmトカラツヤドロムシ *U. uenoi tokarana* (M. SATÔ)

この科の甲虫については小さいこともあって、まだよく調べられていない部分があり、すでに未記載の標本が手許に何種かある。一方では、この類の生息域である溪流が、近年の開発と観光でかなり環境悪化している現実を考えると、早急なそれも小さな離島での詳細調査を必要としているといえよう。

ドロムシ科 Dryopidae

1属1種、リュウキュウムナビロツヤドロムシ *Elmormorphus brevicornis amamiensis* NOMURA (体は黒褐色で、上翅は密な網目印刻と疎な微細毛を装い、8点刻列をそなえる。体長3.0-3.7 mm。) が記録されているだけである。なお、原名亜種は本州、四国、九州に分布する。

○マキムシモドキの岩手・福島両県下からの記録

マキムシモドキ *Peltastica reitteri* LEWIS は、北海道から九州まで分布するが比較的稀な種で、東北地方においては青森県下と山形県下からしか記録されていない(尾崎, 1996)。筆者は本種を岩手県下と福島県下で採集しているので記録しておきたい。

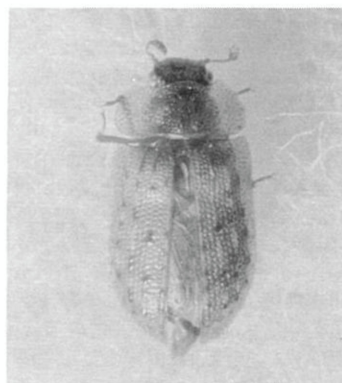
2頭、岩手県下閉伊郡川井村葛部沢(約800m), 13. VI. 1987; 3頭、同村吉部沢(約500m), 14. VI. 1997(写真); 1頭、福島県楢岩村新田原, 27. V. 1983。

岩手県の個体はいずれも、伐採直後のまだ緑色の葉をつけたシラカバの枝先を叩き網して採集した。福島県の個体は、チップ工場の広葉樹材の切り口に生じた白色の菌に頭を突っこんで死亡していた。

末筆ながら、東北地方の本種の記録について種々ご教示下さり発表を勧められた尾崎俊寛氏に心からお礼申しあげる。

参考文献

- 尾崎俊寛, 1996. 青森県の甲虫類(1). 青森県未記録の6小科について. *Celastrina*, (31): 25-28.



(埼玉県浦和市, 芳賀 馨)

富山県から初めて記録されるハムシ類 (1)*

鈴木邦雄・藤本浩二

日本からはこれまでに500種以上のハムシが知られている。富山県下からは富山県昆虫研究会(1979)が過去の文献上の記録も渉猟した上で155種を取り纏めて記録し、その後中川ら(1994, 1996)が富山市呉羽丘陵(1994)と大山町有峰地域(1996)から計約15種の県初記録種を、それぞれ報告している。これらの中には、同定の信憑性に疑問が持たれるものも多少含まれている。他にも種々の文献中に断片的な報告が見られる。本県には日本に産する16亜科の全てが産し、ほぼ170種程度が文献上記録されていることになるものと思われる。

特定地域の特定生物群の群集構造を知ることは、長期的な展望に立って地域の自然環境の保全を考えていく際の基礎資料として極めて重要な意義を持つと考えられる。筆者らは、最近、本県下各地でかなり意識的にハムシ群集の調査を行ってきたが、これまでに多くの未記録種を得ている。近隣の諸県の状況を見ると、岐阜県(磯野, 1982)と福井県(佐々治・斉藤, 1985)からはそれぞれ同数の214種が報告されている。おそらく富山県下には220~250種程度、すなわち日本全国の40%以上のハムシが生息しているものと推測される。近い将来に、従来の記録を全て検討し、近隣諸県の状況を踏まえた上で、本県のハムシ相について論じたい意向であるが、同好の士の注意を喚起する上でも、最近筆者らが得た本県未記録のハムシ類について、特に注目すべき種から順次報告していくことにしたい。

1. *Zeugophora (Pedrillia) varipes* (JACOBY, 1885) アカイロモモプトハムシ [モモプトハムシ亜科 Zeugophorinae]

1 ex., 東礪波郡利賀村栃折峠 (Tochiori-tôge, Yatsuo-machi, Nei-gun), 1-VIII-1994, K. SUZUKI leg.; 1 ex., 同地, 3-VIII-1994, K. SUZUKI leg.

本種は、本州・四国・九州に分布し、食草は不明である。各地から採集されているが、個体数は少なく、かなりの稀種に属する。北信越地方からは、長野県からの記録があり (cf. KIMOTO, 1964)、富山県下にも当然分布するであろうと筆者らが推測していたものである。福井県下(佐々治・斉藤, 1985)や岐阜県下(磯野, 1982)からはわずかながら記録がある。

2. *Zeugophora (Pedrillia) hozumii* CHÛJÔ, 1953 アオグロモモプトハムシ [モモプトハムシ亜科]

1 ex., 中新川郡大山町有峰東谷林道 (Arimine, Ôyama-machi, Naka-Niikawa-gun), 2-VIII-1994, K. SUZUKI leg.

本種は、長野県大滝山を基産地として記載され (CHÛJÔ, 1953)、その後北海道網走(遠軽)から記録されている (KIMOTO, 1964)。既知産地は、以上の2ヶ所にすぎず、極めて稀な種に属する。筆者の一人鈴木は、滝沢春雄氏のご好意で、氏が山梨県仙丈岳で1971年7月11日に採集された標本を2個体恵与されたが、氏は沢沿いのヤナギの1種(ミネヤナギのように葉の細いもの)より得たとのことである。氏は、同日他に数個体を採集しておられる。鈴木は、1992年、北京の中国科学院動物研究所の標本中に本種に極めて類似した種の標本が多数あることに気づいた。同研究所の Yu PEIYU 博士によれば、どうやら酷似した2種が存在する(1種には、*Z. (P.) cyanea* CHEN の同定ラベルが付けられていたと記憶する)ようで、いずれも山地のヤナギの1種から採集しているとのことであった。以上の情報に基づいて、鈴木は、最近数年間、富山県下の中・高山帯でかなり意識的に本種を探索してきたが、ついに上記有峰東谷林道の標高約1,300mの地点のヤナギ(ミネヤナギか)より1個体を得ることができた。木元新作博士が北海道の遠軽(網走)より記録しているのは、森本 桂博士が1959年8月4日に採集されたものである。本種は、本州中部~東北部の標高1,000m以上の山地や北海道の平地~低山帯のヤナギ類に、おそらく7月下旬から8月上旬にかけての短い期間発生するものであろうと推測する。なお、県下全域に広く分布するワモンモモプトハムシ *Z. (P.) annulata* (BALY, 1873) とムナグロモモプトハムシ *Z. (P.) bicolor* (KRAATZ, 1879) に以上の2種を加え、本県に産するモモプトハムシ亜科は4種ということになる。

3. *Donacia (Donacia) hiurai* KIMOTO, 1983 ヒラタネクイハムシ [ネクイハムシ亜科 Donaciinae]

10 exs., 大山町長棟林道~茂住峠 (Nagatô-rindou~Mozumi-tôge, Ôyama-machi), 17-VI-1994, K. SUZUKI leg.

本種は、北海道・本州に分布する。岐阜県境に近い沢沿いに発達した小規模の湿地帯に発生していた。同所には、スゲネクイハムシ *Plateumaris (Euplateumaris) sericea* (LINNAEUS, 1768) も多数発生していた。本種は、北海道から東北~北信越地方の各地から記録されている(野尻湖昆虫グループ, 1985)。上記産地は、野尻湖昆虫グループ(1985)が記録している岐阜県大野郡河合村天生湿原ととも、本種の分布西限にあたる。長野県下からも記録があることから、本県下にも生息している可能性が高いと予想していた。

* SUZUKI, K. & K. FUJIMOTO: Chrysomelid beetles recorded for the first time from Toyama Prefecture, Honshu, Japan (1).

4. *Donacia (Cyphogaster) provostii* FAIREMAIRE, 1885 イネネクイハムシ [ネクイハムシ亜科 Donaciinae]

20 exs., 水見市一畑 (Hitohane, Himi-shi), 12-VII-1992, M. SONA leg. (宿主: ヒルムシロ)

本種は、日本全土の他、極東地域に広く分布し、ジュンサイ・コウホネ・イネなどにつく。富山県昆虫研究会編(1979)によれば、*D. (D.) vulgaris* ZSCHACH, 1788 の記録があるが、本種の誤同定の可能性がある。

5. *Pseudodera xanthospila* BALY, 1862 フタホシオオトビハムシ [トビハムシ亜科 Alticinae]

3 exs., 小矢部市久利須 (Kurusu, Oyabe-shi), 27-V-1996, K. FUJIMOTO leg.; 1 ex., 同地, 14-VI-1996, K. FUJIMOTO; 1 ex., 同地, 22-VI-1996, K. FUJIMOTO leg.; 1 ex., 同地, 9-VII-1996, K. FUJIMOTO leg.

本種は、本州・四国・九州・中国・台湾に分布し、サルトリイバラにつく。本種は、太平洋岸の地域には極めて普通の種であるが、北陸地方からはほとんど記録がないのではないと思われる。鈴木は、富山県下各地で過去20年以上ハムシ類の調査を行ってきたが、これまでまったく本種を発見できなかった。なお、本種は次種と同様、福井県下では各地から記録されている(佐々治・斉藤, 1985)が、岐阜県下からの記録はないようである。

6. *Argopistes tsekooni* CHEN, 1934 ヒメテントウトビハムシ [トビハムシ亜科]

1 ex., 小矢部市久利須 (Kurusu, Oyabe-shi), 14-VI-1996, K. FUJIMOTO leg.; 1 ex., 同地, 27-VI-1996, K. FUJIMOTO leg.

本種は、本州・九州・朝鮮半島・中国に分布し、食草としてはイボタノキが知られている。前種と同様、鈴木はこれまでに北陸地方では発見することができなかった。イボタノキは、県下に普通に見られる。福井県下では2ヶ所から記録されている(佐々治・斉藤, 1985)

7. *Leptispa taguchii* CHŪJŌ, 1956 タグチホソヒラタハムシ (タグチトゲナシトゲトゲ) [トゲハムシ亜科 Hispinae]

5 exs., 富山市寺町 (Tera-machi, Toyama-shi), 17-V-1994, K. SUZUKI leg.

本種は、中條道夫博士によって埼玉県川越市、東京都青山、福岡県英彦山を模式産地として記載された。LEWIS (1888) は、*L. godwini* BALY, 1869 の名のもとに本種を東京近郊 ("Near Tokio") より記録している (cf. CHŪJŌ, 1956)。本州・九州に分布する。本種の宿主植物であるススキは普遍的に存在するにもかかわらず、本種の産地が極めて局所的であることは興味深い。本種を採集したのは、富山市内の呉羽丘陵の一角の極めて小規模の谷戸に生育していたススキの群落であり、三方を丘陵斜面で囲まれており、事実上隔離されたような状態になっている。ススキの葉肉中に数個の卵が産み込まれているのも観察した。本種も、鈴木が長年、富山県だけでなく、

全国各地で発見を心掛けてきたが、果たせなかったものである。筆者らの知る限り、日本海側からの初めての記録であると思われる。なお、大川(1988)は栃木県足利市より記録しているが、滝沢春雄氏(私信)によれば、同県下では他に小山市・宇都宮市・那須町など(いずれも未発表)の標本を検しておられるとのことである。また、筆者らが知り得た限りでは、他に平野(1959, 1979)が宮城県の国見峠や仙台市から記録しており、水戸昆虫研究会編(1993)は筑波研究学園都市周辺からの報告例(大桃, 1987)を紹介している。

末筆ながら、貴重な情報を提供していただくとともに未発表のデータの公表を快諾された滝沢春雄氏と惣名 実氏、貴重な情報を提供していただいた中国科学院動物研究所の Yu PEIYU 博士、文献などでお世話になった神奈川昆虫談話会の平野幸彦氏と水戸市立博物館の成田行弘氏に深謝する。

引用文献

- CHŪJŌ, M. 1953. Description d'une espèce nouvelle de *Zeugophora* du Japon. *Bull. Inst. roy. Sci. Nat. Belg.*, 29: 1-3.
- CHŪJŌ, M. 1956. Contribution to the fauna of Chrysomelidae in Japan (1). *Mem. Fac. Lib. Arts & Educ., Kagawa Univ.*, 2: 1-20.
- 平野幸彦, 1959. 宮城県産トゲハムシ亜科について(宮城県産甲虫雑記 I.). いずみ(仙台昆虫同好会会報), 9: 2-4.
- 平野幸彦, 1979. 宮城県産甲虫類採集目録 III. 神奈川虫報, (58): 45-63.
- 磯野昌弘, 1982. 岐阜県のハムシ類. 『岐阜県の昆虫』(566 pp.): 171-176, 491-505.
- KIMOTO, S. 1964. The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands. I. *J. Fac. Agric., Kyushu Univ.*, 13: 99-118.
- 木元新作・滝沢春雄, 1994. 『日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説』 xvii+539 pp. 東海大学出版会(東京).
- 水戸昆虫研究会編, 1993. 『茨城県の昆虫』 355 頁. 水戸市立博物館(水戸).
- 中川秀幸・常楽武男・小杉 潤・根来 尚, 1994. 呉羽丘陵の昆虫類. 『富山市呉羽丘陵自然環境調査報告』(253 pp.): 69-163. 富山市科学文化センター.
- 中川秀幸・常楽武男・澤田昭芳・小杉 潤・根来 尚, 1996. 有峰の昆虫類. 『常願寺川流域(有峰地域)自然環境調査報告』(345 pp.): 77-229. 富山市科学文化センター.
- 野尻湖昆虫グループ, 1985. 『アトラス日本のネクイハムシ—化石同定への手びき—』 182 pp. 大阪市立自然史博物館.
- 大川秀雄, 1988. タグチホソヒラタハムシの記録. インセクト(昆虫愛好会誌), 39: 86.
- 大桃定洋, 1987. 筑波研究学園都市およびその周辺の甲虫相(ハムシ科 Chrysomelidae 補遺). おとしぶみ, (16): 40-41.
- 佐々治寛之・斉藤昌弘, 1985. 甲虫目. 福井県自然環境保全調査研究会編『福井県昆虫目録』, pp. 79-245. 第2-3 図版.
- 富山県昆虫研究会編, 1979. 『富山県の昆虫』 545 pp. 富山県. [鞘翅目は田中忠次担当]
- (富山大学理学部生物学教室)

○クロサツブミズムシの中部地方からの記録

クロサツブミズムシ *Delevea kurosawai* M. SATO (図1) は現在のところ、日本における Myxophaga 亜目で唯一知られている種類で、本州と四国から記録されている (図2)。本種は特異な形態にもかかわらず原記載以後ほとんど記録が見当たらないが、おそらく微小であることと特殊な環境に生息することによりなかなか発見されないのであろう。

筆者は1996年に、以下の2ヵ所の生息地を、記録のなかった中部地方において発見したので報告する。

報告にあたり、日頃よりご教示いただいている名古屋女子大学の佐藤正孝教授、採集に同行していただいた橋本里志、中野裕道、中島康朗、野中勝、白金晶子の各氏にお礼申し上げる。

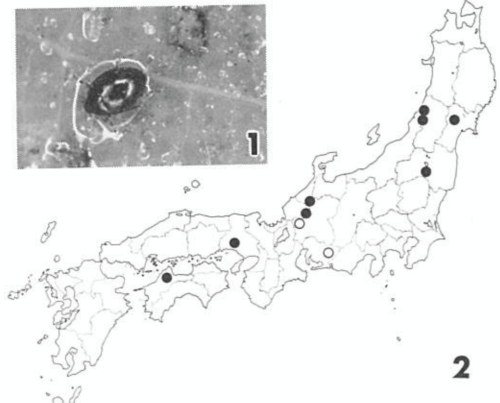
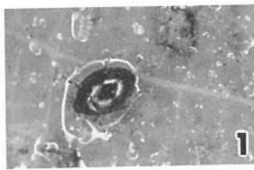


図1. クロサツブミズムシの成虫。
図2. クロサツブミズムシの分布図。●：既知産地、○：新産地。

1. 愛知県鳳来町鳳来湖 (標高約300 m)

生息地はダム湖の奥にある道脇の岩壁である (図3)。3月10日には、成虫のみ多数観察することができた。成虫は比較的活発に水の流れる岩の表面を

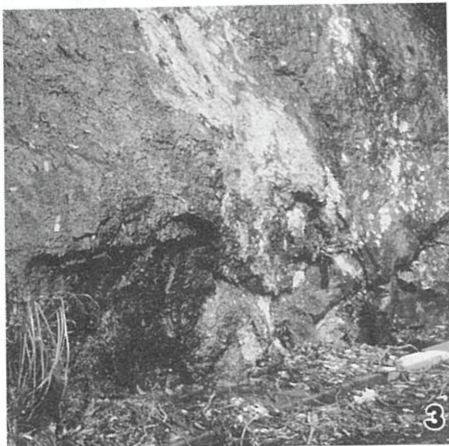


図3. 生息環境・愛知県鳳来町鳳来湖。

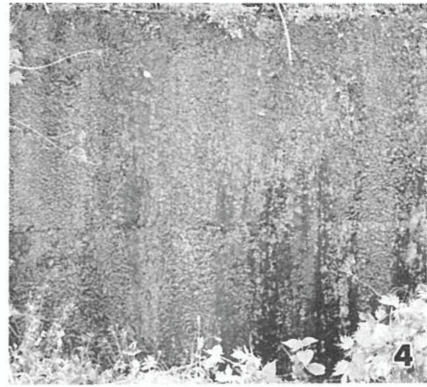


図4. 生息環境・岐阜県藤橋村横山ダム。

這い回っていた。ほかに昆虫ではオビカゲロウやトビケラ、カワゲラ類の幼虫などが見られた。5月1日に再び訪れたところ、成虫と幼虫がほぼ半数見られ、前回にはなかった成虫の死体も見られた。生きている成虫の一部は、鞘翅が軟弱で、体の裏面が褐色のテネラルな個体が見られた。幼虫を50頭ほど持ち帰り室温で飼育を試みたが、一週間ではほとんど死滅してしまった。そのうち1個体のみは蛹化した。成虫にはならなかった。蛹は幼虫の脱皮殻の中にあり、おそらく流水中でも流れないように作られているのだろう。なおダム湖沿いには、ほかにも何ヵ所か水の滴っている岩壁があり調べてみたが、本種を発見することはできなかった。

2. 岐阜県藤橋村横山ダム (標高約250 m)

生息地はダム湖の横にある国道のすぐ脇である。興味深いことに本種が見られるのはコンクリートの壁に水がしたり落ちていたりする場所である (図4)。佐藤教授によると、今まで知られている本種の生息地はすべて自然の岩壁に水が滴り落ちているところ。このような人間の手の加わったところに生息している事例はなかったという。この場所はすぐ横に接して自然の岩壁があり、水も滴り落ちていて、オビカゲロウやヒラタドロムシの一種の幼虫なども見られたにもかかわらず、クロサツブミズムシはまったく見られなかった。5月24日にこの生息地を発見したが、多数の幼虫と少数の成虫が見られた。コンクリートの壁の表面には数ミリの厚さで緑色のソウ類(?)がみられ、その表面に成虫も幼虫も発見できた。成虫と共に幼虫も持ち帰り飼育しようとしたが、持ち帰るときの暑さで死滅してしまった。なお、このダム湖沿いにも、本種が生息しているような水の滴っている岩壁が他にも何ヵ所かあり調べてみたが、発見するに至らなかった。

なにかは分からぬが、本種の分布 (生息) を限定する要因が存在しているようである。

参考文献

SATO, M., 1982. Discovery of Torrindicolidae in Japan. *Annot. zool. Jap.*, 55: 276-283.

(名城大学, 吉富博之)

○チビシギゾウムシの長野県小谷温泉の記録

1994年の日本鞘翅学会の採集会が小谷温泉で行なわれたが、その際に珍らしいシギゾウムシを採集したので報告しておく。

チビシギゾウムシ *Curculio chibi* (Kôno) は北海道および本州に分布するが、稀種らしく本州の記録は野平(1986, 1988, 1991)による岐阜県の3例と福島県松枝岐村の報告以外は知らない。筆者は次のとおり採集したが、残念ながらどのようなところで得たか思い出せない。

3頭, 長野県小谷村小谷温泉, 4-5. VI. 1994.



末筆ではあるが、同定並びに発表をすすめられた野津 裕氏に厚く御礼申し上げる。

参考文献

- 野平照雄, 1986. 月刊むし, (185): 40.
 ——1988. 同上, (210): 39-40.
 ——1991. 同上, (242): 39.

(神奈川県小田原市, 平野幸彦)

○愛知県からクロツヤマメダカハネカクシの記録

クロツヤマメダカハネカクシ *Stenus (Hypostenus) velox* SHARP は、『愛知県の昆虫』(1990年)に集録されていないので、ここに記録しておく。

1頭, 愛知県瀬戸市海上の森, 17. IX. 1995.

採集地は愛知万博の開催候補地であるが、大変よい環境が残されている。

同定していただいた直海俊一郎博士にお礼申し上げます。

(岐阜県郡上郡, 高井 泰)

◇日本鞘翅学会(1997年)◇

〈現状〉1996年11月現在, 会員数558名。

〈会長〉佐藤正孝

〈副会長〉露木繁雄

〈常任幹事〉渡辺泰明(総務・庶務); 野村周平(同); 岩田隆太郎(同); 斉藤秀生(同); 斉藤明子(会計); 上野俊一(編集委員長); 新里達也(Elytra編集); 妹尾俊男(甲虫ニュース編集); 石田勝義(渉外);

平野幸彦(企画); 大木 裕(同); 日下部良康(同); 江本健一(木曜談話会)

〈幹事〉安藤清志; 荒谷邦雄; 藤田 宏; 林 靖彦; 穂積俊文(名古屋支部長); 常喜 豊; 笠原須磨生; 川那部 真; 森本 桂; 中村俊彦; 西川協一; 大原昌宏; 大林延夫; 遠山雅夫; 山上 明

〈会計監査〉田添京二; 渡 弘

〈Elytra編集委員〉上野俊一(委員長); 近 雅博;

森本 桂; 新里達也; 岡島秀治; 高桑正敏

《事務局・入会問合せ先・住所変更連絡先・退会届先・Elytra投稿先》〒169 東京都新宿区百人町3-23-1, 国立科学博物館分館 動物研究部昆虫第二研究室気付, 日本鞘翅学会宛 (代表 tel. 03-3364-2311/fax. 03-3364-7104)

《甲虫ニュース投稿先》〒196 東京都昭島市つつじが丘2-6-22-806, 妹尾俊男宛 (tel. 0425-41-6640; E-mail. senoh@ra2.so-net.or.jp)

《入会方法》郵便振替にて①郵便番号・住所・氏名(ふり仮名も), ②一般・賛助の会員の区別, ③何年度から入会かを明記の上, 00180-3-401793へ送金のこと。大会(11月)の際の受付での入金も可。

《会費》新入会費 ¥1,000; 一般会員年会費 ¥6,000; 国外会員年会費 ¥8,000; 賛助会員年会費 ¥10,000以上, 前納制。

《大会・例会問合せ先》〒250 神奈川県小田原市蓮正寺585-29, 平野幸彦宛 (tel. 0465-36-9791)

《木曜談話会》〒110 東京都台東区東上野4-26-8, 福田ビル6F (tel. 03-3841-4878) (毎週木曜日, 20:00~)

《(旧)鞘翅目学会・(旧)甲虫談話会・鞘翅学会の刊行物バックナンバー取扱い》〒973 いわき市内郷郵便局私書箱11号, TTS昆虫図書館宛 (tel. 0246-27-2521/fax. 0246-27-4031)

(総務・庶務担当, 岩田隆太郎)

日本鞘翅学会

会費(一カ年)6,000円, 次号は1997年6月下旬発行予定

発行人 佐藤正孝

発行所 日本鞘翅学会 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館昆虫第1研究室

電話(3364)2311, 振替 00180-3-401793

印刷所 (株)国際文献印刷社

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

振替 00130-4-21129

電話 (03) 3409-6401 (ムシは一番)

F A X (03) 3409-6160

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社